

第3回国連防災世界会議の準備状況

【国連との調整状況】

○3/12-13 国連準備ミッションの現地視察

・UNISDRや国連のセキュリティー部門、会議サービス部門の担当者が仙台市内の本体会議場や関連事業の主要会場等を視察し、日本政府と協議。

○3/19 ジュネーブにビューローを設置

・各地域の代表により、世界会議の運営や内容等について検討を開始。

ビューローメンバー(5地域×2カ国+開催国):

アフリカ(エジプト、南スーダン)、アジア(タイ、バングラデシュ)、東欧(ロシア、チェコ)、米州(エクアドル、ジャマイカ)、欧州その他(スイス、フィンランド)、開催国(日本)

【日本の準備状況】

○2/10 国内準備会合(第1回)における検討

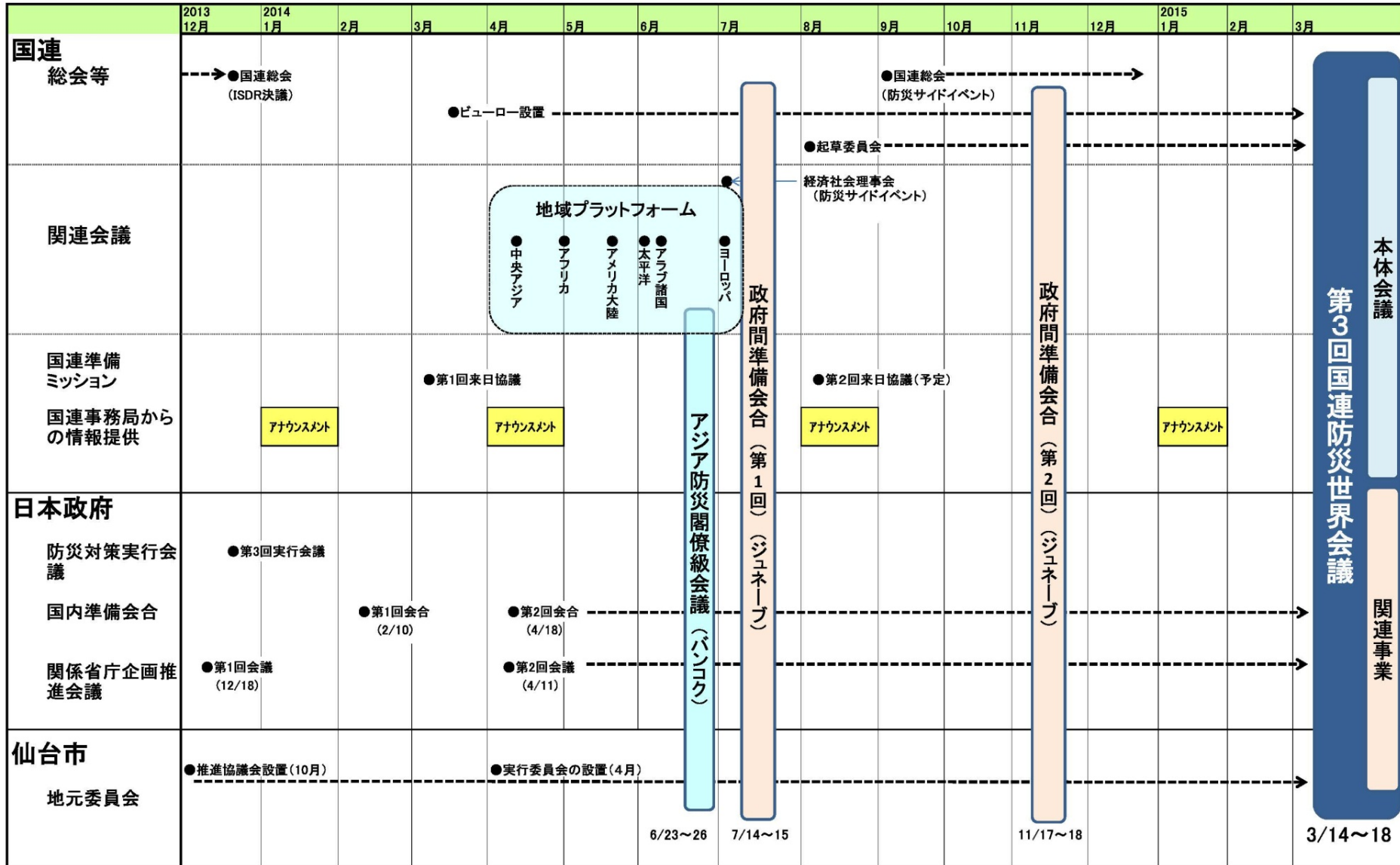
- ①ポスト兵庫行動枠組の策定に向けた我が国の提案内容
- ②東日本大震災からの教訓、防災技術・ノウハウ等の我が国の知見の発信内容
- ③東日本大震災からの復興の発信内容、被災地の復興の発信内容

○4/11 関係省庁企画推進会議(第2回)の開催

○4/17 仙台開催実行委員会(第1回)の設置

構成メンバー: 仙台市、東北大学、地元経済界、政府、東北6県、地元企業・団体等

第3回国連防災世界会議 準備スケジュール



第3回国連防災世界会議 本体会議及び関連事業への参画

【本体会議への参画】

・会議の構成等については、現在ビューローで検討中であるが、政府としてはポスト兵庫行動枠組の策定に資するセッションに参加する準備を進めているところ。

【関連事業の開催】

以下の事業を含め、政府・地元自治体一体となって開催のための準備を実施中。

○総合フォーラム

・本体会議参加者や市民等が参加する、関連事業の中心となるシンボリックイベント。「東日本大震災の経験や教訓、震災からの復興を世界へ(仮)」を主テーマとして、分野横断的な議論が行われる。

○シンポジウム・セミナー

・防災・復興に関する、より個別具体的なテーマを取りあげて行う事業を想定。

○防災復興展

・防災や復興の取り組みの説明や、資料・機材等の展示が行われる予定。

○防災産業展

・防災関連企業による、最新の防災関連技術・機材等の展示や説明会・商談等が行われる予定。

○スタディ・ツアー、エクスカーション

・被災地等の復興状況、東北の魅力ある観光資源の視察プログラム。

